

第3回「知の拠点」整備構想検討委員会に係る意見書

- 「知の拠点」整備構想を策定するにあたっては、グラウンドデザインを描いた上で年次計画をたてることが重要である。グラウンドデザインを持たないまま、キャンパス整備計画にとりかかってはいけない。
- 大学の玄関口をイメージしたキャンパスづくりも必要である。福知山公立大学には様々なルートから通学することができるため、一見良いことのように思える。
しかし、今後の学生数の増加に伴いバイク通学生等が増えれば、キャンパスが住宅街に囲まれているため、騒音問題等が発生し、近隣住民から苦情が生じる心配もある。大学へのアクセスの充実を図る観点だけでなく、近隣住民との調和を図る観点からも早期に大学へのメインストリートを作るべきである。大学の玄関口は、いわば大学の顔である。まずはメインストリートを明確に描き、メインストリートを中心としてキャンパスの広がり絵を考えるべきではないか。例えば、大学へのメインストリートの終着点にバスターミナルを設置することでキャンパスの玄関口をイメージしやすくなると考える。
加えて、大学周辺だけでなく、福知山駅から大学へのアクセスも明確にすべきである。現在のところ、大学周辺には案内看板が見受けられず、初めて大学に行く者にとっては場所がわかりにくい。案内看板の設置を早期に検討すべきではないか。
- 学生数が増加したとしても自動車通学の学生は限られると思う。自転車、二輪車(バイク)通学者が多くなると予想されるため、駐車場よりもまずは駐輪場の整備を行うべきではないか。
- 公共交通を充実し、通学環境を向上させることも重要である。宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町では200円バスを導入したことにより、大きな効果を挙げている。高校生を持つ保護者にとっては、従来と比較し通学費が大きく下がったため、経済的負担の低減につながっている。
福知山市は家賃が高いとのことだが、さらに公共交通運賃も高いとなれば、保護者・学生の経済的負担は大きい。
バス便数を増加させることも重要だが、まずは運賃を下げることを検討すべきではないか。
将来的には京都府北部全体で200円バスを運行できるようになれば、京都府北部全体の活性化にも繋がると考える。
- 「知の拠点」づくりを進めるのであれば、シンボルとしての入学式・卒業式を行うことができる規模の講堂(ホール)が必要ではないか。また、講堂に限定せず、大講義室等の開放型イベントも可能な施設が必要である。